

## 地域・在宅看護論

### 【科目構成とねらい】

地域・在宅看護論は、地域包括ケアシステムの構築・推進を念頭に置き、地域で生活する人々と家族を理解し、地域における様々な場での暮らしを支える看護の基礎を学ぶ科目である。

地域で暮らしている人は、一時病気で入院・治療が必要になったとしても、治療を終えれば地域に戻っていく。したがって、病院と地域での看護を分断せず、対象となる人や家族の暮らしの拠点としての「地域」をまず理解し、様々な場で様々な健康状態にある人々の暮らしを支える看護を学べるよう、科目を構成した。

地域包括ケアシステムにおいては、看護師が働く場も多様である。したがって地域で暮らす人々の多様な生活事象から、「感じ取る力」を使って人としての存在意義や生活の奥深さを理解することから始める。そして「考え構成する力」を使って、対象の意思決定支援や生活の再構築や質向上にむけた援助技術について学習する。また、コミュニケーション論や家族論で学んだ知識・技術・態度を統合し、「表現する力」を使って対象や家族の気持ちに寄り添い、家族を一単位として捉えたエンパワメントアプローチの基礎を身につける内容とした。

#### 「地域・在宅で暮らす人々の理解」

看護の対象が暮らす地域の特性を知り、地域で暮らす人々を理解する。地域で暮らす人々がどのような暮らしを望んでいるか、地域でどのような自助・互助・共助・公助が行われているかを知る。地域包括ケアシステムの概要を理解し、看護の対象が暮らす地域でどのようにシステムが活用されているか、すべきかを考える。

#### 「地域・在宅看護概論」

地域・在宅看護の概念や特徴、変遷と今日の課題を学ぶ。多様な場での看護、それを支える社会資源についても学び、対象者の生活を支えるための継続看護、訪問看護における看護師の役割や連携について学ぶ。さらに、看護の対象者の生活を支える家族を理解し、パートナーシップを基盤とした支援について学ぶ。

#### 「地域・在宅でのその人らしい暮らしを支える看護」

療養者やその家族が置かれている状況の多様性を理解し、今後の病状変化の予測を踏まえて在宅療養者や家族の自立・自律を促し、生活の質を維持・向上させていく看護を学ぶ。主に訪問看護の場で多く出会う病態や状態の特徴を取り上げ、アセスメントの視点、セルフマネジメント支援にむけた援助を学ぶ。セルフマネジメント、エンパワメントなど既習の理論、社会資源の活用をする。

#### 「在宅看護技術」

地域で暮らす人や在宅で療養している人の健康段階・発達段階に応じた観察力、的確な判断力を身につける。在宅看護に必要な日常生活援助・医療的ケアの技術を学び、暮らしの場における物品の工夫や方法を考える。

校内実習では、訪問マナー、清潔ケア、移動(リフト)介助、栄養ケア、呼吸ケアを学ぶ。また、講義時から意図的にグループワークやロールプレイを取り入れ、主体的に考える力、人に説明する力、多様な価値観を受け入れつつ合意形成する力を養う。

#### 「ケアマネジメント」

在宅療養者とその家族が、地域包括ケアシステムの中でどのような社会資源を活用し、多職種と連携しながら生活しているか事例をもとに主体的に考え、地域包括ケアシステムの実際を学ぶ。

#### 「在宅看護の展開」

療養者と家族の事例展開を通し、生活者中心の価値観・人生観、自己決定、家族介護力、社会資源の活用に着目し看護を展開できる基礎的能力を養う。家族を一単位として捉え、強みの強化、弱みに対する援助計画の立案、エンパワメントアプローチを用いた指導案の作成とロールプレイにより自己決定を促す関わりを学ぶ。

## 【目的】

地域包括ケアシステムの構築・推進を念頭に、地域で生活する人々と家族を理解し、地域における様々な場で対象と家族の暮らしを支える看護の基礎を学ぶ。

## 【目標】

1. 看護の対象が暮らす地域の特性を知り、人々の生活の多様性を理解する。
2. 地域包括ケアシステムの概要、地域での活用の実際を理解する。
3. 地域・在宅看護の概念や特徴、変遷と今日の課題を理解する。
4. 継続看護、訪問看護における看護師の役割や社会資源を理解する。
5. パートナーシップを基盤とした家族支援について理解する。
6. 療養者や家族との信頼関係構築や、自己決定を促すためのコミュニケーションを習得する。
7. 在宅看護に必要な日常生活援助・医療的ケア・生活の質向上のための援助技術を理解する。
8. 療養者と家族の事例展開を通し、生活者中心のエンパワメントアプローチ、家族介護力、社会資源の活用に着目した看護を理解する。
9. 訪問看護ステーション・通所施設など様々な場での実習を通して、地域で生活している人々や家族を支える看護を理解する。

## 【構成および計画】

科目	単位数	時期		
		1年	2年	3年
地域・在宅で暮らす人々の理解	1(15)	○		
地域・在宅看護概論	1(15)	○		
地域・在宅でのその人らしい暮らしを支える看護	1(30)		○	
在宅看護技術	1(30)		○	
ケアマネジメント	1(15)		○	
在宅看護の展開	1(15)		○	
計	6(120)	2(30)	4(90)	

## 授業計画

科目名	地域・在宅で暮らす人々の理解		単位数 (時間数)	1単位 (15)	履修 時期	1年次
科目 目標	1. 多様な場で暮らす人、療養する人を理解する。 2. その人らしい生活を送るための地域組織活動を理解する。 3. 地域での健康生活を支える多職種連携の意義と役割を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	多様な場で暮らす人の理解	地域とは 地域で暮らす人(個人・家族・組織など) 多様な場における地域活動 地域社会の構造と特性 地域の特性や保健活動の実際 地域でかかわる医療・保健・福祉の様々な専門職	講義	専任教員*		
第2回	地域調査	地域調査(フィールドワーク) 調査する地域(事前準備) 地域実地調査	演習 地域調査	専任教員*		
第3回						
第4回		調査結果・検索結果の整理 まとめ	演習	専任教員*		
第5回		地域調査結果まとめ発表	演習	専任教員*		
第6回	社会保障の変遷	地域の保健・医療・福祉の多様な機関との連携 地域在宅看護に関わる社会保障制度 保健・医療・福祉における施策 療養生活を支える介護保険制度	講義	専任教員*		
第7回	社会保障の変遷 地域組織活動	地域包括ケアシステム 自助・互助・共助・公助 介護予防・日常生活支援総合事業 地域住民と様々な介護予防事業 地域における人々の健康管理行動 保健所の活動と保健センターの活動	講義	専任教員*		
第8回	評価		評価 方法	筆記 80点 レポート 20点		
備考						

## 授業計画

科目名	地域・在宅看護概論		単位数 (時間数)	1単位 (15)	履修 時期	1年次
科目 目標	1. 地域・在宅看護の概念について理解する。 2. 多様な場でその人らしい暮らしを支える看護師の役割、社会資源について理解する。 3. 訪問看護制度や訪問看護ステーションの概要が理解できる。 4. 療養者を取り巻く家族も支援対象としてとらえることができる。					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 *実務経験のある教員	
第1回	地域と看護	地域看護、在宅看護の概念 対象 歴史と発展 基本理念と倫理		講義	専任教員*	
第2回	多様な看護の場 と看護師の役割	多様な地域・在宅看護の場と看護師の役割 地域:保健所、行政の窓口、介護認定審査会 病院:地域医療連携室、地域ケア病棟、 福祉施設における看護		講義	専任教員*	
第3回	地域・在宅看護 に必要な社会保 障制度	地域包括ケアシステム 地域・在宅看護に必要な社会保障制度 介護保険制度		講義	専任教員*	
第4回		訪問看護制度(介護保険・医療保険) 公費負担制度:難病、障害児・障害者		講義		
第5回		地域保健・地域医療・権利擁護に関する制度		講義		
第6回	訪問看護の概要	訪問看護の機能と役割 訪問看護サービスの仕組み 訪問看護の展開 暮らしを支える支援と連携		講義	専任教員*	
第7回	家族看護	家族論と看護 療養者を介護する家族の理解とケア 保健・医療・福祉チームの家族への支援 家族の価値観を尊重した看護 在宅看護の展望と課題 地域包括システム構築における対象の拡大 地域共生社会と看護		講義	専任教員*	
第8回	評価			評価 方法	筆記・レポート 100点	
備考						

## 授業計画

科目名	地域・在宅でのその人らしい暮らしを支える看護		単位数 (時間数)	1単位 (30)	履修 時期	2年次
科目 目標	1. 在宅で暮らす、または療養する対象の状況に応じた安全・安心の保障について学ぶ。 2. 様々な状態にある人がその人らしく暮らし QOL を維持・向上させていく看護の基本、社会資源活用を理解する。					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 *実務経験のある教員	
第1回	対象の状況に応じた療養生活の保証	在宅療養上のリスクマネジメントと対応 在宅療養におけるリスクの特徴 安心・安全な暮らしを支える施策		講義	専任教員*	
第2回	在宅療養における健康危機管理	24時間・緊急時体制 医師との連絡調整・特別訪問看護指示書 災害に対する準備と対応		講義	専任教員*	
第3回	在宅看護介入時期別の看護	在宅看護介入時期別の特徴 継続看護にかかわる制度、連携の方法 地域連携クリティカルパス・多職種連携		講義	専任教員*	
第4回	疾病再発予防が必要な地域で暮らす人々の看護	認知症高齢者の地域・在宅看護 生活習慣病の予防・疾病の悪化防止		講義	専任教員*	
第5回	活動低下予防が必要な地域で暮らす人々の看護	在宅リハビリテーション 機能障害の生活への影響 合併症予防と対応・住環境のアセスメント		講義	専任教員*	
第6回	地域で暮らす障害者を持つ人々への看護	障害を持ちながら生活する人の在宅看護 身体・精神・知的障害者への支援 障害者総合支援法の活用		講義	専任教員*	
第7回	医療的ケア児の在宅看護	医療的ケア児への在宅看護 医療的ケアへの支援 家族ケア、レスパイト 在宅での障害児支援(特別支援教育)		講義	専任教員*	
第8回	地域・在宅で人生の終末を迎える人々への看護	人生の最期を迎える場所: 自宅・病院・施設 在宅における対象の特徴 意思決定支援 ACP		講義	外部講師	
第9回		在宅における症状緩和・苦痛緩和 意思決定支援 ACP 症状緩和 安楽の援助 多職種連携、活用できる社会資源		講義	外部講師	
第10回		エンドオブライフケアと看取り 看取り期に予測される生理的变化と対応 看取り期の連絡方法・対応 エンゼルケア グリーフケア		講義	外部講師	
第11回	難病の在宅療養者と家族への看護	難病の在宅療養者と家族の看護 症状に応じた生活の工夫・医療機器管理 家族の支援・社会参加の支援		講義	専任教員*	
第12回		難病の進行に伴う症状・日常生活への影響 日常生活援助と医療的ケア		講義	専任教員*	
第13回	難病(ALS)の療養者と家族の日常生活	難病の在宅療養者と家族の思いと日常生活 社会資源の活用 文字盤使用によるコミュニケーション		講話 演習	当事者と家族	
第14回	地域包括ケアシステムと看護	地域包括ケアシステムにおける地域・在宅看護 地域で暮らす人々を支える社会保障制度と看護		講義	専任教員*	
第15回	評価			評価 方法	筆記・レポート 100点	
備考						

## 授業計画

科目名	在宅看護技術		単位数 (時間)	1単位 (30)	履修 時期	2年次
科目 目標	1. 療養者や家族との信頼関係を構築するためのコミュニケーション技術を理解する。 2. 地域・在宅で暮らす人々の健康生活を支えるために必要な対象のヘルスアセスメント、生活 援助技術、相談指導技術、医療処置について理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	在宅看護の 基本技術	関係構築のための基本技術 相談支援技術 訪問時のマナー	講義	専任教員*		
第2回		在宅におけるフィジカル・メンタルアセスメント 生活の場のアセスメント 住環境・人的・社会的環境から知る生活状況	講義	専任教員*		
第3回		訪問マナーとコミュニケーションの実際 訪問時の観察技術 ※ロールプレイ(療養者役と訪問看護師役)	校内 実習	専任教員*		
第4回	在宅における 活動と休息・ 清潔援助技術	活動・睡眠に関するアセスメント 活動への援助技術 移動・移乗介助(福祉用具の活用)	講義	専任教員*		
第5回		清潔に関するアセスメント 在宅における清潔の援助技術 入浴、清拭、洗髪、手浴、足浴	講義	専任教員*		
第6回		在宅における清潔ケア援助技術 物品を工夫した床上での洗髪 移乗・移動の援助技術 居宅移動用リフト 床上移動シート	校内 実習	専任教員*		
第7回						
第8回	在宅における 食事への援助 技術	食事に関するアセスメント 経口摂取の援助 嚥下機能が低下した人の援助 経管栄養法の管理(胃瘻・腸瘻) 中心静脈栄養法の管理(CVポート)	講義	専任教員*		
第9回		胃瘻の管理(模型使用)	校内 実習	専任教員*		
第10回	在宅における 排泄への援助 技術	排泄に関するアセスメント 排泄機能が低下した人への援助 ストマ・膀胱留置カテーテルの管理	講義	専任教員*		
第11回	在宅における 呼吸循環への 看護技術	呼吸・循環に関するアセスメント ガス交換障害と在宅酸素療法(HOT)管理 換気障害と在宅人工呼吸器(NPPV・TPPV)管理	講義	専任教員*		
第12回	医療的ケア	在宅で気管切開をしている人への看護技術 排痰援助法(用手圧迫法、気管内吸引) 気管切開部の管理 コミュニケーションの工夫 危機管理・緊急時の対応 医療的ケアとは:法的根拠	講義	専任教員*		
第13回		気管切開をしている人の呼吸管理の実際 観察:吸引前・中・後、アセスメント、排痰ケア ポジショニング、口・鼻腔・気管内吸引 気管切開部の処置・管理、カフ圧確認 アンビューバッグ使用	校内 実習	専任教員*		
第14回						
第15回	評価		評価 方法	筆記・レポート 100点		
備考						

## 授業計画

科目名	ケアマネジメント		単位数 (時間)	1単位 (15)	履修 時期	2年次
科目 目標	1. 地域包括ケアシステムの中での社会資源活用の方法、多職種連携の実際を事例検討やシミュレーションを通して学ぶ。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	地域看護におけるケアマネジメント	地域看護におけるケアマネジメントとは何か	講義	専任教員*		
第2回	介護保険法におけるケアマネジメントとケアプラン～作成	介護保険法におけるケアマネジメント 事例提供⇒ケアプランの作成	講義 演習	専任教員*		
第3回	介護保険におけるケアプラン～発表	介護保険法におけるケアマネジメント ケアプランの発表	演習	専任教員*		
第4回	ケアマネジメントと関係者会議	地域で暮らす人々を支える関係者会議 地域ケア会議 要保護児童対策地域協議会 地域支援会議(精神障害者地域移行支援事業) など	講義	専任教員*		
第5回	ケアマネジメント関係者会議～困難事例を考える①	ケアマネジメントと関係者会議 複数の困難事例の支援内容 認知症高齢者、児童虐待、精神障害者 重症心身障害者の親の高齢化など 会議に参加する職種の例 行政職員(関連する担当課、保健師) 地域の訪問診療医、訪問看護師 介護支援専門員、民生委員 サービス事業所の介護職・相談支援員等	演習	専任教員*		
第6回	模擬地域ケア会議	ケアマネジメントと関係者会議 模擬地域ケア会議を開催	演習	専任教員*		
第7回	地域で暮らす人々へのケアマネジメント	地域で暮らす人々へのケアマネジメント 地域における看護師の役割	講義 演習	専任教員*		
第8回	評価		評価 方法	筆記・レポート 100点		
備考						

## 授業計画

科目名	在宅看護の展開		単位数 (時間)	1単位 (15)	履修 時期	2年次
科目 目標	1. 事例展開を通して、在宅療養者および家族の生活環境、価値観や意向、家族介護力や社会資源活用などアセスメントの視点を理解する。 2. 家族を一単位として捉え、強みの強化、弱みに対する援助計画の立案ができる。 3. エンパワメントアプローチを用いて対象の自己決定を促す指導が体験できる。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第1回	在宅看護の特徴と看護の視点	在宅看護における情報収集 五感を活かした観察 療養者と家族 暮らしと医療 療養生活への希望・自己決定の尊重 エンパワメントとアドボカシー Case learning(慢性疾患:事例の病態と看護)	講義	専任教員*		
第2回	在宅療養者と家族の看護展開	事例のアセスメントの視点(個人ワーク) アセスメント視点の共有	演習 講義	専任教員*		
第3回		事例の病態と日常生活への影響:全体像図 病態の原因・誘因と予測 健康状態と日常生活への影響 療養者、家族の意向	講義 演習	専任教員*		
第4回		療養者、家族の強みと弱みの分析 療養者・家族の意向、生活環境、健康状態を踏まえた援助計画	講義 演習	専任教員*		
第5回		援助案の作成と検討 療養者、家族の強みを強化(エンパワー) 弱みに対する援助(傾聴、提案、促し)	演習	専任教員*		
第6回		在宅看護の実践	ロールプレイ エンパワメントアプローチによる 援助場面のロールプレイと全体での振り返り	演習	専任教員*	
第7回	在宅看護実践の評価	援助計画の修正、追加 学習のまとめ	講義 演習	専任教員*		
第8回	評価		評価 方法	筆記・レポート 100点		
備考						